

# 【決定稿】

## 令和6年度 第1回神奈川県立生田高等学校学校運営協議会結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立生田高等学校学校運営協議会
開催日時	令和6年6月17日(月)15時00分～16時30分
開催場所	神奈川県立生田高等学校小会議室
出席者 (役職名)	学校運営協議会委員 菅原 隆宏 (川崎市立稗原小学校長) 中村 隆英 (川崎市立生田中学校長) 山内 みずき (本校PTA会長) 布川 勝也 (本校校長) (以下、書面(※)による参加) 深澤 倫子 (明治大学理工学部教務主任・応用化学科・教授) 脇本 健弘 (横浜国立大学教職大学院准教授) 米山 福吉 (多摩区長沢地区自治会長) 原山 修 (多摩区長沢商店会長) (※ここまで)  本校職員 細川 諭 (副校長) 杉山 崇裕 (教頭) 檜垣 桜子 (事務長) 根津 玲子 (総括教諭・学習支援グループリーダー) 鯨吉 剛 (総括教諭・研究開発グループリーダー) 牧野 篤敬 (総括教諭・管理・運営グループリーダー) 宇都宮 亘 (総括教諭・生徒活動支援グループリーダー) 石原 和彦 (総括教諭・生活支援グループリーダー) 森安 翔 (記録 教諭・研究開発グループ)
次回開催予定日	令和6年10月
問合せ先	担当者名 神奈川県立生田高等学校 研究開発グループ 鯨吉剛 電話番号 044-977-3800 FAX番号 044-976-9398

審議(会議)経過	<p>1 開会（副校長） ○学校運営協議会の成立について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員の出席が4名であり、過半数に満たない状況であるが、他4名の委員には事前に資料を送付し、書面開催の形式にさせていただいた。本日は、対面と書面開催を併せて行うことで成立とさせていただきたい。</li> <li>書面開催で頂戴した意見に特段のご紹介するものはなかった。</li> </ul> <p>2 委員紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出席者より自己紹介</li> <li>書面による参加者は副校長より紹介</li> </ul> <p>3 校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お忙しい中、ご参加いただき感謝する。本日は忌憚のないご意見をいただきたい。</li> <li>令和5年度学校評価については、前回3月に行われた学校運営協議会の意見を踏まえて記入した。</li> <li>本日は令和6年度目標設定について協議していただきたい。日程の都合上、県に提出済みではあるが、本会議でいただいたご意見をもとに、必要があれば修正をする。</li> <li>SSHについては令和7年度に申請をして、令和8年度から指定を受けることを想定している。DXハイスクール事業による環境整備等で弾みをつけSSH申請につなげていきたい。</li> <li>協議会は校長に対してはもちろん、教育委員会に対して意見を述べるができる。今後、SSHの申請をする令和7年度に向けて、教育委員会に対してそのことを十分に踏まえた人事について学校運営協議会から意見することも考えられる。</li> </ul> <p>4 協議</p> <p>(1) 会長、副会長の選出</p> <p>(1) について、委員から、会長を本校PTA会長の山内様、副会長を布川校長とすることの了承を得た。</p> <p>(2) 部会の設置及びその構成員について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料1に基づき、副校長より説明を行った。</li> <li>(2) について、委員から了承を得た。</li> </ul> <p>(3) 令和6年度目標設定（兼令和5年度実施結果報告）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料9に基づき、各グループ、教頭より説明を行った。（委員より）</li> <li>ICTの活用の定義は何か。何をもち活用とするのか。</li> <li>→生徒による授業評価の項目「ICTを積極的に活用して授業を受けているか」の回答結果で判断をする。各教科で少し数値が下がっていることが昨年度の課題である。</li> <li>進路指導・支援の目標の文言が昨年度と変わっているのはなぜか。</li> <li>→基本的な方針は変わっていない。一人ひとりの進路実現に向けてキャリア教育の視点をもって進めていくために、1年間の目標の1つを「面談を活用した進路指導の充実を図る」とした。また、外部模試等の結果を用いたデータによる進路指導も行っていく。</li> <li>プッシュ型面談を実施した生徒は何か。</li> <li>→県の想定は全体の10～15%で、本校の場合は100名超の生徒がス</li> </ul>
----------	--

	<p>クールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと面談をしている。そこから学年で情報共有したのは各学年 30 名程度だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の働き方改革についてはどうか。</li> </ul> <p>→この 2 年間で朝早く出勤する職員は少なくなった。大きな転換点として、出欠席の連絡が保護者の携帯端末でできるようになったことが挙げられる。勤務時間外の電話対応を音声による自動案内に変えたことも教員の退勤時間を早めることに繋がっている。部活動について、輪番制をとり、特定の教員に負担が偏らないように協力している。</p> <p>(校長より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○部活動顧問について <ul style="list-style-type: none"> <li>・顧問に主も副もなく、顧問は顧問。主顧問、副顧問という言い方をしないよう徹底している。</li> <li>・そのうえで、代表顧問を決め、時間外指導については輪番制を奨励している。専門的技術指導ができる方が率先して、代表顧問から外れ、輪番制に入ってくれている例もあり、複数顧問による指導体制が効果的に運用されている。</li> </ul> </li> <li>○ノー残業デーについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務を圧迫するのではなく、業務のスリム化に繋がっていると思う。</li> </ul> </li> </ul> <p>(4) 理数教育推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 12-2、12-3 に基づき、研究開発グループより説明を行った。</li> <li>○SSH 指定までのロードマップについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、数学、理科、科学部の教員による理数教育推進プロジェクトチームを発足した。</li> <li>・令和 7 年度入学生から数学 B の必修化、理数探究基礎・理数探究の設置等一部カリキュラムが変更となる。先月、理数探究の教科書選定を行った。授業内容や形態については研究開発グループと進路支援グループが検討していく。</li> <li>・今後、SSH の申請に向けた申請書の作成を行う。</li> </ul> </li> <li>○理数教育推進校に関わる令和 6 年度計画について <ul style="list-style-type: none"> <li>・5 月より管理職による授業観察と並行して互見授業を行っている。6 月 9 日に理科の志村教諭による公開研究授業を実施した。11 月にも研究授業を実施する予定であり、小中学校の先生方にもぜひご参加いただきたい。</li> <li>・今年度はルーブリックを用いた評価や学習指導に取り組む。6 月 13 日に本校職員の曾根教諭による職員研修会を実施した。</li> <li>・明治大学との高大連携事業については今年度も引き続き行う。昨年度は明治大学長島教授に講義を行っていただき、総合的な探究の時間の発表会にもご参加いただいた。</li> <li>・総合的な探究の時間と関連付けて、KSP (かながわサイエンスパーク) や KISTEC (神奈川県立産業技術総合研究所) 等との企業連携を図る。</li> <li>・例年と同じく、海の生物観察会をはじめとした自然科学教室を行う。また、7 月 29 日には KISTEC に光触媒についてのワークショップを開催していただく予定である。</li> </ul> </li> </ul> <p>(委員より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KSP や KISTEC 等とはどのような経緯で連携することになったのか。</li> </ul>
--	--

→生徒一人ひとりの探究したいテーマに合わせた企業を選ぶのは難しいことから、約 100 社が集まっている K S P と連携することで、生徒がより早い段階で企業の方にアドバイスをもらえると考え、K S P と連携する運びとなった。

(5) D X ハイスクールについて

- ・12-4 に基づき、研究開発グループより説明を行った。
- ・昨年度 D X ハイスクールの申請を行い、それが承認されたため 1,000 万円の予算がついた。I C T を活用した文理横断的な探究的な学びを強化するという視点で、環境整備の費用に充てる。具体的には、電子黒板機能付きのプロジェクターを特別教室に設置するとともに、I C T 教室や視聴覚室の整備なども行う。
- ・校内各所にデジタルサイネージモニターを設置し、理数教育等に関する情報発信を行い、生徒の興味・関心を高めていく。

(3) ~ (5) について、委員から了承を得た。

5 その他

特になし

(校長より)

- ・以前までは開始時間を 15 時 30 分としていたが、終了時間の関係から今回は 15 時開始とした。本日は 7 校時があったため総括教諭の出席が難しかった。次回以降の実施する曜日や開始時間について検討したい。
- ・昨年度、総合的な探究の時間の発表会に明治大学の教授にご参加いただいたり企業連携を図ったりしたが、今後はコンテストの体裁を取っていきたいと思う。
- ・委員の皆様におかれましては、さまざまな形でご支援いただき、感謝する。引き続き、ご助言、ご意見をいただきたい。

6 閉会 (P T A 会長)

- ・事前に資料をいただいていたが、直接話を聞くことでより理解が深まった。
- ・この会議は生田高校が魅力的な学校であるために必要なことだと考えている。引き続き協力させていただきたい。